

ID No.	2013
研究課題名	インスリン様シグナルを介した糖尿病随伴認知機能障害の発症機序の解明
研究代表者	徳永 暁憲 (国立長寿医療研究センター・室長)
研究組織 受入教員 研究分担者	吉田 進昭 (東京大学医科学研究所・教授) 田口 明子 (国立長寿医療研究センター・部長) 多田 敬典 (国立長寿医療研究センター・室長)
研究報告 現在の高齢化社会の進展に伴う認知症患者数の増加は、今後大きな社会問題となることが予想される。しかし認知症の根本的な治療薬は未だ存在せず、また認知症発症後での病態改善が困難であることから早期段階での診断および予防の措置を図ることが認知症対策として重要と考えられている。 近年、糖尿病が認知症の重要なリスク要因であることが示され、我々は認知症と糖尿病の両疾患を結ぶ分子経路として脳インスリンシグナルに着目した研究を行っている。本年度においてⅡ型糖尿病モデルマウス及びインスリン欠乏を成因とするⅠ型糖尿病モデルマウス(STZマウス)を作製した。特にⅠ型糖尿病モデルSTZマウスにおいては重篤な高血糖症が観察され、それに伴いAKT、GSK3βなどインスリンシグナルの標的因子のリン酸化が脳内で亢進することが見出された。 現在、STZマウスの組織学的解析および行動学的解析を行っており、糖代謝異常が脳組織に及ぼす影響を詳細に解析している。認知・学習能を検証することで認知機能障害とインスリンシグナルの変容と発症タイミングとの関連について今後更に検証してゆく。	